

無責任

伍 だってさ



ぼくら仲良し三色ボールペンです
いつも一緒にいるけれど
たまにひとり顔が見えなくなります
働いているってことだけれど
ちよつときびしくもなるのです

私たち三色ボールペンです
いつも楽しくしているけれど
どんどんインクが減っていきます
充実感はあるけれど
いつか来る死が怖いです

ねえどうしてそんな顔をするんだい
いつだつてとても悲しいのに
二人はずつと笑っている
ねえ気付いていないかい
俺はずつと殻の中にいるのに

でもちよつと
だけど少し
しかし本当は
つらいこともあれば
やるせない瞬間や
楽しいこともあって
やっぱりさ
どうだろう
きつとほら

書類をいっぱい書いたから
お別れのときが近いようです
感謝の言葉とかは
考える余裕がなかつ

採点をいっぱいしたから
終わりが迫ってきました
二人に会えて
私は幸せだつ

孤独が幅を利かせている
たった一人残されて
筆箱の一番下で
誰からも忘れ去られている
だけど本当はとか
でも本心ではとか
そんなことは絶対に言わない
さびしい
切ない

俺は今永遠に続く海である
しかし少しずつ固くなっていく
何も表現できなくなる前に
せめて考えておこう
何を書くべきなのか
ああでも思いつかない
時間よもう少しゆっくりと
でもしかしただけどうだめだ



ぼくはきつと……

半島

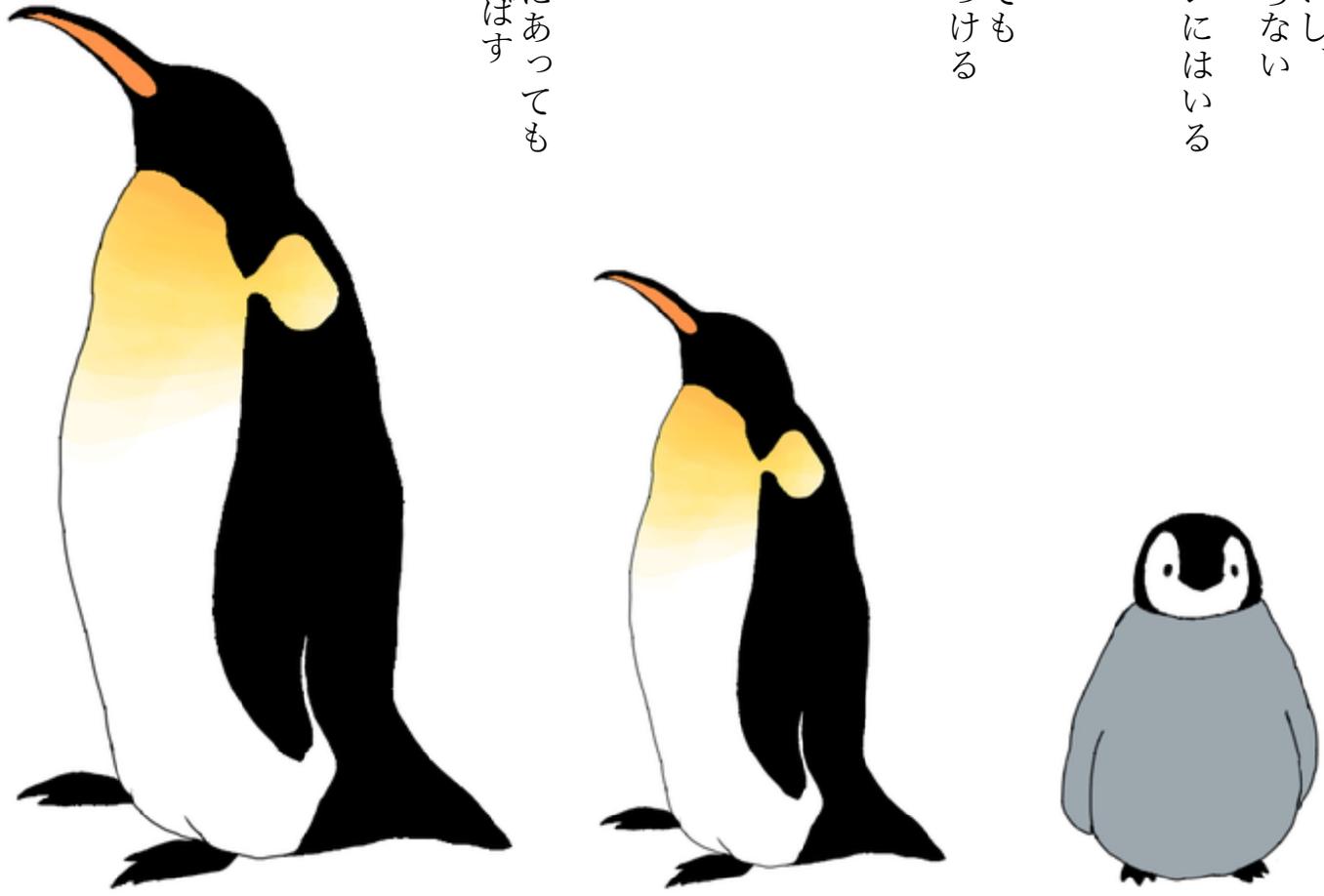
ぼくはきつと
夜というものだ
どんなに明るい街にあっても
射殺されたアパッチの夢を見る

ぼくはきつと
ペンギンだ
あまりに遠いものだから
どこにいるかもわからないし、
どこにいないのかもわからない
でもたぶん
チューインガムのデザインにはいる

ぼくはきつと
アンドロイドだ
通信がとだえた月にあっても
ヒトへの憧れは、飢えつつける

ぼくは

ぼくは
きつと夏だ
きつと、きつと
かんかん暑い夏だ
たとえ
耳が凍るような谷川の中にあっても
太陽へ
手を伸ばす





『無責任』 第5号

責任者 清水らくは

副責任者 半島

イラスト 鈴山 岬

連絡先 rakuha@hotmail.com
発行日 2012年7月1日